

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

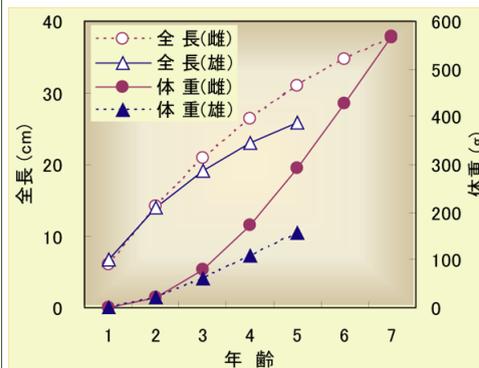
系群名 日本海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8歳
 成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
 産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域および島根県浜田沖
 索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
 エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高い
 食性:
 捕食者: エビジャコ類(幼稚魚期)

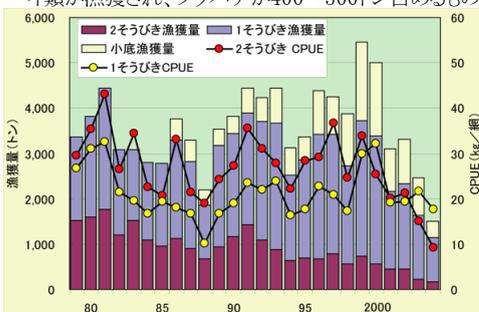


漁業の特徴

日本海西部海域では、1そうびきと2そうびき沖底びき網(沖底)、小型底びき網(小底)などの底びき網や刺網、釣・はえ縄等で漁獲されているが、漁獲の大半は底びき網によるものである。1そうびき沖底の漁場は島根県以東の海域が中心、2そうびき沖底は対馬周辺海域～島根県沖が漁場である。1988年以前は、1そうびきと2そうびき沖底の漁獲が底びき網による漁獲の80～90%を占め、残りが小底によるものであった。1988年以降は沖底の漁船数が盛期の50～70%に減少したこともあり、近年は小底による漁獲割合が若干高くなっている。

漁獲の動向

本種の総漁獲量は1986年以降大幅な増減を繰り返しながら推移し、1999年には5,000トンを超えた。しかしその後減少し、2004年には最低の1,500トンまで減少した。2004年に日本の200海里内において韓国漁船により900トンのカレイ類が漁獲され、ソウハチが400～500トン占めるものと推定された。

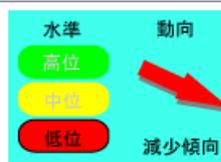


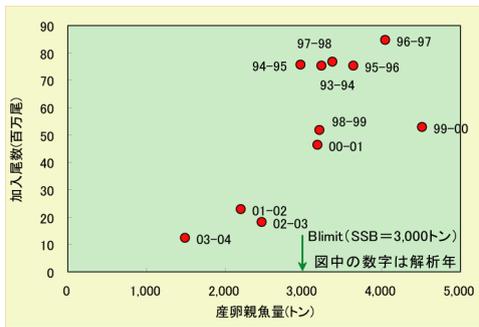
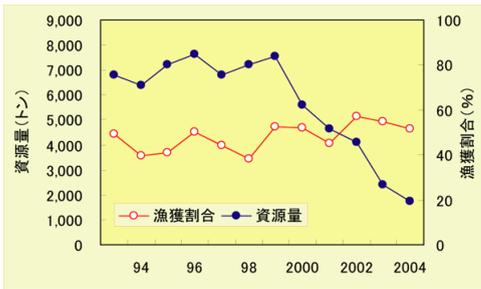
資源評価法

ソウハチの耳石に形成される年輪に基づいて全長一年齢一入り数(銘柄)換算表を作成した。この換算表を用いて島根県浜田漁港における2そうびき沖底及び鳥取県の1そうびき沖底により水揚げされたソウハチの年齢別漁獲尾数を算出し、沖底漁獲成績報告書の漁獲量に引きのばし、1993～2004年の本系群の年齢別漁獲尾数を推定した。自然死亡係数を0.3とし、コホート解析を実施した。

資源状態

2004年の資源量は1,800トンで漁獲割合は52%であった。2000年及び2002～2004年の加入量(1歳魚)の減少にともない2000年以降の資源量は減少傾向に推移した。また、2004年の親魚量が著しく少ないこと及び、2003、2004年の再生産成功率が低いことから、資源は低位、減少傾向にあると判断した。



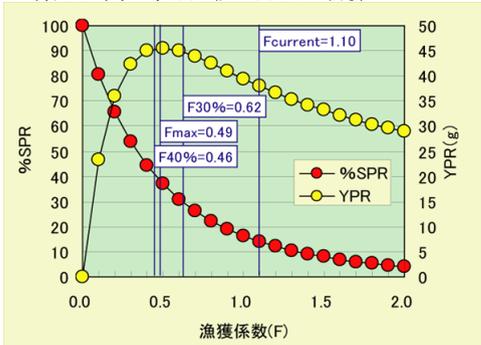


管理方策

産卵親魚を確保する必要があり、2015年に産卵親魚量がBlimit(SSB3,000トン)に回復するように探索的にFrecを求め、これをFlimitとした。さらに不確実性を見込んで $\alpha=0.8$ を乗じた値をFtargetとした。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	550トン	Frec	0.53	28%
ABCtarget	460トン	0.8Frec	0.42	23%

- 沖底を対象に、4月を誕生月として計算



資源評価のまとめ

- 2004年の沖底の漁獲量は過去最低であった
- 2000年及び2002～2004年の加入量(1歳魚)は低調で、2004年の親魚量が少ない
- 2003、2004年の再生産成功率が低い
- 資源水準は低位、動向は減少傾向にあると判断した

管理方策のまとめ

- 漁獲量を過去の平均的な水準に回復させるためには、産卵親魚を保護し、加入を助長する必要がある
- 2015年に産卵親魚量がBlimitに回復するように探索的にFrec(Flimit)を求めた
- 不確実性を見込んで $\alpha=0.8$ を乗じた値をFtargetとした

資源評価は毎年更新されます。
2005.12.8更新